

(1年)

	今年度の課題	改善策	補充・発展指導計画	年度末評価
国語	<ul style="list-style-type: none">自分の考えや、想像したことを言葉で表すことを苦手としている。拗音、促音、長音、助詞を正しく表記できない。	<ul style="list-style-type: none">体験したことを振り返り、作文や絵日記に取り組む。言葉集めの活動を取り入れる。繰り返し練習問題に取り組ませる。	<ul style="list-style-type: none">合格できなかった漢字ミニテストは何回も挑戦させて、確実に書くことができるようにする。音読指導を引き続き行い、授業でも様々な音読を経験させる。	<ul style="list-style-type: none">隙間時間や授業の初めの時間を活用して、漢字練習に取り組む経験を積むだけでなく、概ねの児童が知識として身に付いた。様々な音読方法や音読劇に取り組むことで、少しずつ正確さだけでなく、せりふを意識して読むことができるようになった。
算数	<ul style="list-style-type: none">10までの数の合成分解の理解が不十分。10までの加法、減法をすらすら計算できない。加法、減法の文章問題の理解が不十分。(繰り上がり、繰り下がりのある加法、減法の計算の時間を要する。)	<ul style="list-style-type: none">具体物、半具体物や歌、100玉そろばんなどを使い、数の概念を理解させる。10までの数の合成分解を繰り返し学習し、定着させる。操作活動では、図や言葉で表現する活動を取り入れる。生活と結び付いた問題づくりや体験活動を取り入れる。	<ul style="list-style-type: none">ティームティーチングの指導を充実させ、個に応じたきめ細やかな指導を工夫して行う。学習のまとめでは補充プリントに取り組んだり「キュービナ」を活用したりする。	<ul style="list-style-type: none">繰り上がり・繰り下がりのある計算では、さくらんぼとソーセイジなどの型を定着させることで、速さと正確さが向上した。文章問題によく使われる表現から加法減法を理解し、問題を解く際に生かせるようになった。
生活	<ul style="list-style-type: none">動植物を育てる活動を通してそれらに関心をもち、生き物への親しみをもって育てる経験が少ない。	<ul style="list-style-type: none">各々が責任をもって植物を育てる機会を増やす。観察カードを工夫したり、振り返ったりする機会をつくる。	<ul style="list-style-type: none">校内にある植物等に興味をもたせるように、春夏秋冬で比較したり、みかん狩りなどの体験活動を増やしたりする。実物を観察したりマイパソコンの写真機能を使って詳しく記録したりさせる。	<ul style="list-style-type: none">朝顔を種から育て、再び種を取るところまでを観察し続けることで、命が次の世代に引き継がれることを学び、生き物を大切にしようとする態度を養えた。
音楽	<ul style="list-style-type: none">鍵盤ハーモニカでは、正確な指使いで演奏することに課題がある。	<ul style="list-style-type: none">正確な指使いを理解するために演奏前に指番号でリズムを捉えたり、音は出さずに鍵盤で指使いを確かめたりしながら指導に当たる。	<ul style="list-style-type: none">教科書の写真を使って鍵盤の位置を確認する。指導者がそばでゆっくり歌ったり指をさしたりしながら音を出すように支援する。	<ul style="list-style-type: none">階名や指番号で歌ったのちに鍵盤ハーモニカに触れるという手順を踏み、スモールステップで指導することで、ドからソまで正しい指使いで演奏することができるようになった。

<p style="text-align: center;">図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや想像したことから表したいことを見つけることを苦手になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達からヒントを得たり、自由な発想をしたりしている児童の作品を取り上げる。 ・ハサミで切る、手で丸める、ちぎるなど指先を使う活動を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図工の時間だけでなく、他教科でも見る、造る、描く活動を取り入れて発想を高める機会を作る。 ・生活科の学習とも関連付け、計画的に制作活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の見本が意欲と発想の両面に作用した。 ・友達の作品を鑑賞し、肯定的な声掛けをすることで、自信につながった。
<p style="text-align: center;">体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力や運動経験の差が大きい。(特にボール投げ、シャトルラン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入部で児童が運動に関心をもてるような運動遊びを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく、休み時間やクラス遊びを活用してボール遊びや走る運動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次学年以降につながる感覚づくりの運動に意欲的に取り組むことができた。 ・場をたくさん用意することで、運動量の確保につながった。